

## 1 多様な活動ができる単元の展開

子供たちの大好きな探検学習です。また、子供たちにとって「探検」という言葉には特別な意味があるようです。そこで、「町をたんけんしよう」の単元を一人一人が思いや願いを持って主体的にやりたいことを見つけ、多様な活動ができる単元にしたいと考え、次の点に配慮しました。

## (1) 単元導入 ～学習材との出会いを大切にしよう～

効果的な学習材との出会いをつくり出すためには、事前に子供の興味・関心の実態を確かめる必要があります。本単元においては、日常の会話や日記から子供たちの興味・関心を把握し、町探検への意欲を高めていこうとしました。

Sくんが日記に書いてきた「K池」は学校から歩いて5分程の場所にあり、日頃から子供たちの会話の中に登場する身近な池です。ところが、「巨大なコイ」と「沈んだバイク」の話題をきっかけにK池は「ちょっと気になる場所」「どこか秘密めいた場所」に変わっていきました。

そこで、単元の導入においてK池周辺の自由散策を行い、その中で生まれる子供たちの気づきをきめ細かく見取っていこうと考えました。その結果、次のような気づきが生まれ、その後の「探検テーマ」へと発展していきました。

～2年生になって最初の生活科の授業で～

T：2年生の生活のお勉強ではどんなことをしてみたいかな？

C：2年生になると町探検がある。

T：どうして知ってるの？

C：前の2年生がやっていました。

C：速くまで行けるんだよね。

C：いつ行けるのかな。

C：早く行きたいな。



～「K池には巨大なコイがいる」：Sくんの日記～

T：Sくんが「K池には巨大なコイがいる」と日記に書いてきたけど、知っている人はいるかな？

C：ほくも知ってます。おうちの人が言っていました。

C：はじめて聞きました。

C：わたしはK池にはバイクが沈んでいるって聞きました。

C：ええーっ。なんか怖いなあ。

C：K池に行って見てみたいなあ。

## K池周辺散策における「気づき」と「探検テーマ」

- 池のまわりの「よもぎ」
- C：国語の教科書の「まど」によもぎだんごが出てきたね。
- C：どんな味なのかな。
- C：よもぎだんごを作って食べたい。



- 池にいた大きな「カエル」
- C：学校のカエルとは違う。
- C：イボガエルかな？
- C：魚はいないみたいだよ。
- C：裏山の夏無川にならいるよ。

「よもぎだんごを作ろう」

- 「温泉に入ろう」
- 「温泉たまごを作ろう」
- 「くろがね焼きを作ろう」

- 側溝を流れる「温泉」※
- C：町にはたくさんの温泉がある。
- C：温泉はどこからくるのかな？
- C：温泉に入りたい。
- C：温泉たまごも作りたい。
- C：町の名物には「くろがね焼き」もあるよ。

「裏山を探検しよう」  
「木の実や生き物探しをしよう」

- 遠くに見える牧場
- C：町の牧場には牛がたくさんいるんだよ。
- C：乳しぼりをしたいな。

「牛の乳をしぼってバターを作ろう」

※ 学校が温泉街にあるため側溝に旅館の温泉のお湯が流れている。